

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	認知症に対する訪問リハビリテーションの今後の課題 ～アンケート調査を通して～
演者名	古山大雅 ¹⁾ 万澤大輔 ²⁾ 渡辺立雄 ¹⁾ 伊藤慎吾 ¹⁾
所属	1) わたなベクリニック 2) 生野愛和病院

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

超高齢化社会が急速に迫りつつある昨今、認知症患者も増加傾向にあります。認知症高齢者の多くは在宅生活を送っている。数ある介護サービスの中で訪問リハビリの利用事態調査を行い、今後の訪問リハビリの可能性と課題を検討した。

方法

当事業所地区の居宅介護支援事業所と訪問リハビリ事業所に従事している職員 70 名を対象としてアンケート調査を行った。

結果

回収率は 88.5%であった。回答者の職種はケアマネージャー37 名、訪問リハビリ従事者が 15 名、その他が 10 名であった。

アンケート実施に対し「認知症について関心がありますか」の問いに 100%の方が「はい」と答えた。「認知症の利用者に必要度の高い介護保険サービスを選択してください」との問いに対して 88.7%が通所介護、77.4%が訪問介護とグループホーム、69.3%が短期入所生活介護、54.0%が訪問看護を選択しており、訪問リハビリは 33.8%であった。「認知症の利用者に対して訪問リハビリは必要と思われますか」との問いで 77.4%の方が必要であると答えた。また、「認知症の利用者に対して訪問リハビリの導入に至らなかった事例はありますか」との問いに 40.3%の方が「はい」と答え、「単位数の不足」「本人・家族の同意が得られなかった」などがあった。

考察

今回の調査では、訪問リハビリのニーズの多くは、身体機能面・ADL 面へのアプローチが主であった。そのためそれらの機能や能力が低下している方以外では訪問リハビリ導入の優先順位が低く出た。しかし、リハビリテーションでは本人の精神機能面や環境面なども含めた総合的視点で実施されるものである。今後の課題では、訪問リハビリでは精神機能面等を含めた総合的なアプローチが実施できることを利用者・家族やケアマネージャー等に認知してもらうことが重要である。そのためには総合的な指標を用いて評価し、効果を訴えていくことで訪問リハビリの有用性を理解してもらう必要がある。